

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-85487

⑬ Int. Cl.⁹
D 03 D 27/00

識別記号 庁内整理番号
A 6936-4L

⑭ 公開 平成3年(1991)8月29日

審査請求 有 (全1頁)

⑮ 考案の名称 内装用パイル布帛

⑯ 実 願 平2-73371

⑰ 出 願 昭59(1984)12月28日
前特許出願日援用

⑱ 考 案 者 中 村 勤 大阪府大阪市中央区南本町1丁目6番7号 帝人株式会社内

⑲ 考 案 者 広 田 文 夫 大阪府大阪市中央区南本町1丁目6番7号 帝人株式会社内

⑳ 考 案 者 田 代 幹 雄 愛媛県松山市北吉田町77番地 帝人株式会社松山工場内

㉑ 出 願 人 帝 人 株 式 会 社 大阪府大阪市中央区南本町1丁目6番7号

㉒ 代 理 人 弁 理 士 前 田 純 博

㉓ 実用新案登録請求の範囲

(1) ポリエステル繊維よりなるパイル布帛において、粒度が 0.6μ 以下の二酸化チタン含有量が 0.1 重量%以下であつて、かつ断面形状が2以上のくびれ部を有する断面偏平率2~6の偏平断面を有するパイル系を含むことを特徴とする内装用パイル布帛。

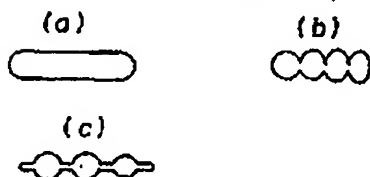
(2) 偏平断面を有するパイル系が捻係数2.8~3.5の紡績糸である請求項(1)に記載の内装用パイル布帛。

図面の簡単な説明

第1図 a, b, cは本考案において用いる偏平断面系の断面図の例である。Wは断面の巾(Width)、Lは断面の長さ(Length)である。第2図は本考案のパイル布帛の組織の例であり、一連組織のモケットをパイルカットして作成するときの断面図である。

1……経方向の地糸、2……緯方向の地糸、3……パイル糸、4……パイルカット用ナイフである。

第 1 図



第 2 図

